

忍草浅間神社

忍野村の忍草にある浅間神社は 807 年に建立され、1186 年に現在の所在地に遷宮しました。1193 年には、鎌倉幕府の将軍、源頼朝がこの神社に、北の鳥居地峠に至るまでの社領を与えました。今日ではこの神社は、19 世紀に氏子が開発した忍野八海と密接な関係にあります。

イチイの古木がこの神社の境内に多数生い茂っています。これらの木々の外周は、1.4～3.7m で、その中には特徴的な「夫婦」として成長したものも見られます。

三神像

この神社の社宝には 1315 年に遡る 3 体の木像が含まれています。ひとつは、今では浅間神社の女神、木花咲耶姫の像だと考えられている女性の木像です。学者は、これらの三神像は、古来よりある竹取物語のかぐや姫と、2 名の求婚者を表現すべく彫られたものだと考えています。この物語では、かぐや姫は絶え間なく求婚者から求愛され続けていた絶世の美女で、この求婚者の中には完全にかぐや姫の虜になってしまった帝も含まれます。これらの求婚者をすべて拒否したかぐや姫は最後には不死の薬だけを残して月に戻ってしまいます。悲しんだ帝は、この薬を富士山の頂上で燃やすように命じました。富士山が天に最も近い山だからです。この言い伝えによると、富士山の「富士」の起源は日本語の「不死」に由来するということです。